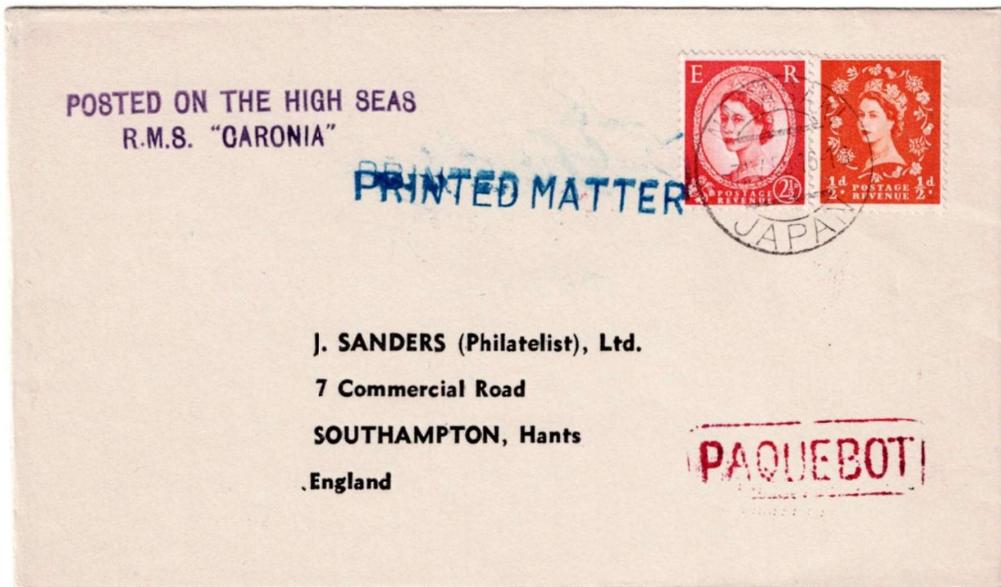


201

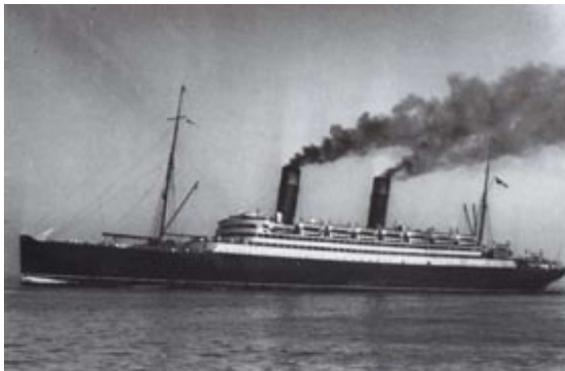
2023. 1. 15

長崎郵趣

クルーズ客船パクボー
伊藤純英



長崎寄港第1号 英国船カロニア号
NAGASAKI 1958. 4. 7



『Wikipedia』から

クルーズ客船パクボー

伊藤 純英

長崎は、1571年の開港以来、鎖国時代～昭和において、我が国の国際ゲートウェイとして大きな役割を果たしてきた。

クルーズ客船寄港の歴史も古く、1958年のカロニア号の長崎初寄港以来、毎年数多くのクルーズ船が寄港しており、日本を代表する国際観光県となっている。2012年にはクルーズ客船寄港のべ1000隻目を記録した。

クルーズ拠点としての優位性として挙げられるのは、背後には、世界遺産（教会群とキリスト教関連遺産/九州・山口の産業遺産群等）が集中しており、「雲仙」「西海」の2つの国立公園や壱岐・対馬の国立公園、五島の周辺離島など、観光資源が豊富であることなどが挙げられよう。

今月は、長崎に寄港した外国船籍、とくに英国船籍になるが、寄港の際、差し出し

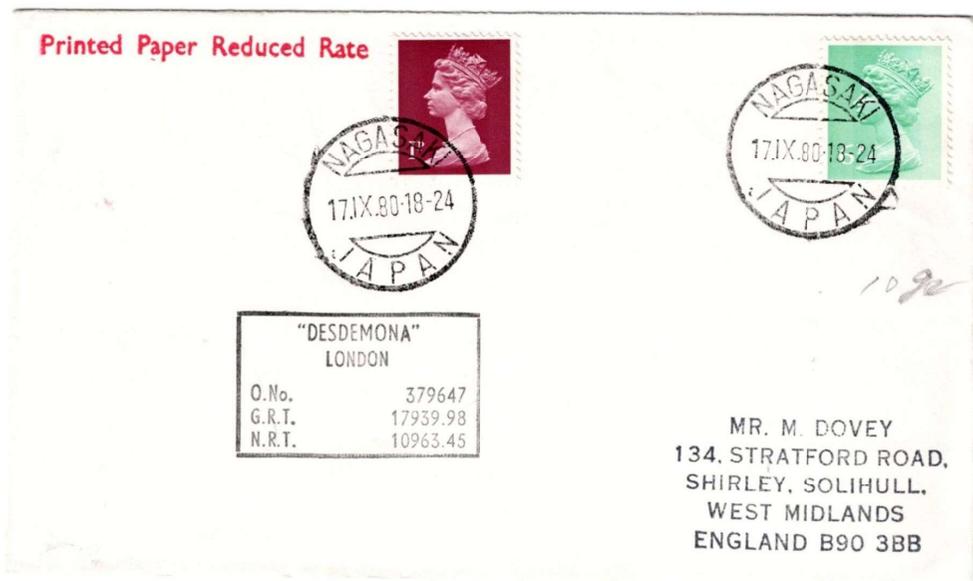
た郵便物のパクボー便を4点紹介する。

表紙は長崎寄港第1号カロニア号のパクボー便。このページ下には、1977年のクィーンエリザベス2世号。この船は、キューナード・ライン社が保有していたクルーズ客船で、20世紀後半を代表する豪華客船である。前ページと下の画像は、フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

次ページにデスデモーナ号とシープリンセス号。のパクボー便を掲載する。



英国船クィーンエリザベス2世号
NAGASAKI 1977. 3. 11



英国船デスデモーナ号
NAGASAKI 1980. 9. 17



英国船シープリンセス号
NAGASAKI 1985. 3. 6